
生きる

蟻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生きる

【Nコード】

N4272N

【作者名】

蟻

【あらすじ】

楽しそうだったので、投稿してみました。

土道を進む蟻を軽く踏みつける。

もがき痙攣したような動作を繰り返す蟻に、仲間が駆けつける。

もし僕が蟻ならば、光栄にも蟻の仲間に入られるのであれば、僕はこう言うだろう。

誰も僕に構うな。放っておけ。この痛みを受け入れたり、理不尽を感じ僕意外のすべてに悪意を向けることが出来るのは僕だけだ。助けなんか必要ない。ひとりにしろ。僕に同情なんかするな。

こう言う。そう、こう言うだろう。僕はクロオオアリなんだ。自分のことをしろ。僕が死んでから運べ。食事なんか自分で取られる。消える。消えてくれ。ほうら見る。身体機能の何割も破壊されたって歩いていけるんだ。僕はこういう風になりたい。強くなりたい。叶うならばワーカーになって土を掘り、女王蟻や幼虫やさなぎの面倒を見て、餌を取り、運び、巣へと持ち帰るような、そんな風になりたい。この蟻はもう終わりだけど、きつと苦しみより幸福をたくさん感じたはずだ。不幸であつたはずがない。こうして僕に軽く靴裏で踏まれ、体液を漏らし、内臓を破壊され、しかし倒れることなくもがき苦しむ、この命の輝きをこうして僕に見せつけることが出来たんだ。これこそが幸せであるはずなんだ。未だかつて人がこのようにまで尊く、神々しく生きたためしがあるだろうか。無い。そうだ、無いんだ。息だつて腹の穴が擦れ塞がりかけて満足に出来やしない。仲間の蟻に引つ張られるのみだ。邪魔をしないでくれ。一つの栄光を、可能性を、つまらないものに邪魔されるなんて、潰えさせられるなんて

そうして僕はふいな息苦しさを感じ、瞼の内の暗さを感じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4272n/>

生きる

2010年10月9日13時09分発行